婦人と新社會

山田わか主筆

七月號

マルクス主義と社會進化

社會正義ご婦人問題

社會正義と幸福

自已並に社會の本體

たましいに對する概念の進化

社會正義と貧乏問題

佛教、ストア哲學、社會主義

大正九年三月二十二日第三種郵便物認可
大正十五年六月二十三日印刷納本

毎月一回一日發行　第七十六號　大正十五年七月一日發行

東京婦人と新社會發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

マルクス主義と社會進化

「歴史は社會進化の階段の一過程である」と云ふのがマルクス主義の學說の眞髓であり、共產黨宣言書の第一宣言である。

そして「今日のブルジョアとプロレテリアの階級爭鬪は各時代の多くの階級爭鬪の最後のものである故に今日の社會秩序が破壞されて則ちブルジョアが倒されてプロレテリアが支配階級となつた時には、もはや階級爭鬪と云ふものは無くなる。階級は一つしか存在しないことになるから。故に、世界のプロレテリアよ、これが完成するために團　せよ」と云ふ言葉で結んでゐる。

此處で、私共が直ぐに考へさせられることは、マルクス主義は階級爭鬪の存在が社會進化であると云ふことを其の眞髓としながら、しかも、資本主義を倒してしまつた時にはもはや階級爭鬪は無くなると云つてゐることである。

階級爭鬪が無くなると云ふことは、取りも直さず、社會進化が停止すると云ふのと同じことになつてしまう。が、社會進化は資本主義倒壞と同時にさう急に止んでしまうものであらうか。又、止んでよいものであらうか。

且つ又　今日の社會秩序破壞則ち、私有財產の撤廢と同時に階級爭鬪が無くなると云ふならば、そんならば、私有財產制度が存在しなかつた共產主義的な元始的社會には爭鬪もなく、從つて、變化も進化も無かつた筈である。

共產主義的元始的社會に變化が起り進化が生れたとするならば、今後も亦、變化が起り進化が生れると云ふことは豫想できることであり、そして、社會進化は階級爭鬪以外の原則によるものだと云はなければならない。故に、マルクス主義の理論はツジツマの合はぬものだと云ふことが出來る。

理論の明断を自誇しながらマルクス主義者は此の矛盾に氣付かずに居るのか。それとも無視してゐるのか。

社會正義と婦人問題

この一文は名古屋新聞へ送つたものでありますが、本誌愛讀者に〻讀んで頂きたいと思ひまして此處に轉載しました。

社會正義と幸福

正義といふことについての解説はいろ〱ありますけれども、しかし、この正義の基礎となるべき原則についての充分な說明をした學者はまだありません。いひ直せば、正義の哲學的なすなはち、根本的な定義はまだ無いのです。

が、思ふに、正義とは、不平等に生れてゐる人々のために、人爲的に平等な狀態をつくり出すことであると私は思ひます。つまり、弱いものをしひたげようとする、ない至、さく取しようとする强いものを强制的に取つて押へ、弱いものゝ味方をする力であると私は考へます。

事實からいつても、歷史から見ても、生理的に智力的に優秀な力を持つてゐるものはその力の結果を所有しようとします。自分が生理的に智力的に他人よりもすぐれてゐる結果、そこに造り出された財力は、みな、獨占して自分の思ふまゝに——それがどんなに世間に禍ひを殘すようになつても——使用しようとする權利の主張は、野蠻時代に腕力の强いものが弱いものをしひたげて最も美しい婦人を自分の自由にし、

凡ての物品を自分のものにしようとしたのと同じで、今日においては、それが正しくない、つまり、正義に反してゐるといふ事は、まづ、常識のあるものならば誰でも認めてゐます。

そして、さういふ自然の不平等を人爲的に平等にしようとすることが、凡ての文明國の普通の政策になつてゐます。

文明の進歩と共に、腕力は權力なりといふやうなさういふ自然の狀態に國家が干渉して、さういふ自然の狀態とは全然反對な、そして、全く人爲的な制度を設定しました。政治的に法律的に經濟的に萬人の平等といふ原則を定めたのです。

國民のすべてが皆平等に政治に參與する權利があるといふのは、これは、政治的正義であるし、法律の前には凡ての人間がみな平等であるといふのは法律的正義であるし、凡ての人が平等に働く機會を與へられねばならぬといふのは經濟的正義の主張であります。

ところが、これらの正義のうちの或るものはツイこの頃まで、又或るものは今日においても男子の世界にのみ運用されてをつて、女子の世界まで延長されてをりませんので、こゝに婦人問題が起りました。

そこで、いはゆる女權主義者はこの政治的正義、法律的正義、經濟的正義を女子の世界にも男子の世界と全然同じように延長せよと主張して參りました。

この主張に對して私は十有餘年の間反對のような態度をとつてをりましたが、しかし、男の世界に行はれる正義が女の世界に行はれてはならないなどゝ、そんな馬鹿なことを私は考へてゐるのではありません。

政治的に、法律的に、經濟的にどんなに完全に不平等を除去しても、しかしながら、生れながらに人間が持つてゐる不平等や、男女の差と

いふやうなものは、取去ることは出來ません。
又、男女の差の如きは取り去る必要もありません。取り去る必要が無いどころではない、取り去つてはいけないのです。なぜなら、男ばかりの、又、女ばかりの世界は決して幸福な世界ではありませんから。

政治的正義　法律的正義、經濟的正義だけで人の生活が充分であるならば、それらの正義が行はれてゐる男子の世界は充分に幸福であるはずですが、しかし、今日の女の世界に不幸が多いと同じように、男の世界にも不幸なことが澤山あります。

そして、それは、今日の社會には社會正義が行はれてゐないことの證據です。

社會正義といふことは、貧富の區別はあつても、男女の差はあつてもひとしく幸福を享有し得る狀態をつくり出さうとすることです。

政治上平等であつても、法律上同じように取り扱はれても、經濟上の安定があつても、それらは私どもの生活の唯一部分でありますから、それだけでは私どもは全部的に滿足ではありません、從つて幸福ではありません。

いひ直せば、感情の滿足が無ければ私どもは幸福ではないのです。

自己並びに社會の本體

私共の感情は、どうして起つて來るかといふと、それは、社會狀態、つまり、くわん境によつて引き起されます。

實に、社會狀態、即ち、くわん境が感情を生み、その感情が觀念を生み、この觀念が結晶して社會思想となり、そして、この社會思想によつて動く事がいはゆる社會運動です。

たとへば、婦人が生活してゐる社會の社會狀態、即ち、くわん境が婦人をしひたげ婦人の人格を無視するとします。このくわん境は婦人た

口惜しいといふ感情を起させます。そして、この感情を毎日毎日續けて持つてゐるうちに、その感情が「この社會狀態は不正である」といふ觀念を生みます。そして、かういふ觀念があちらにもこちらにも生れて、いくつかゞ一ツにかたまつた時にそれが社會思想であり、そしてその思想によつて働くことがいはゆる社會運動です。

ですから、この社會運動をして幸福の增進となさうとするならばまづ、最初に、感情の源である社會狀態を正しく、公平に觀察する必要があります。

正しく、公平に觀察しないで、白いものを黑いと思ひ違へて、そして感情をわかせて、誤つた觀念を生み、おかど違ひの社會思想を結晶させ、あらぬ方向に實際運動を進めて行くならばそれは無駄骨折りであるばかりでなく、恐ろしい不幸に陷る事になります。

そして、さう云ふあやまちを仕出來さないようにするには、どうすればよいか、色目鏡をかけないようにするには私どもはどうすればよいか？ まづ、私どもは自己といふものをシッカりとつかんで置く必要があります。

本當の自己といふものは絕對であつて、それは神ともいひ、眞理ともいひ得る程のものですから、この意味の自己はすなはち社會です。故に、自己の利害得失と、社會の利害得失と衝突する理由はないのです。けれども、事實において衝突してゐます、そしてこれが人間社會の人爲的不平等となつてゐます。

なぜさうかと申しますと、神ともいひ、眞理ともいはれる無限なる本當の自己は有限なる無數の小さい自己に分割されてゐます。いひかへれば、無數の情緒に分たれてゐて、そして、この無數の情緒が、又無數の欲望となつて働いてゐます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

例をあげて見ますならば、よい事をしたいといふ欲望が一方にあると同時に、他の一方には不正でも何でもかまはない差し當り都合のいゝことをしようとしたり、金をためたいと思つたり、使ひたいと思つたり、節制しようとしたり放縱になりたかつたり、夫婦の間などでも、愛したかつたり、憎みたかつたり、實に人間生活はいろ〳〵の情緒の一ツのたばのようなものであります。

そして、それらの情緒のうちの最も力强いものが、まづ、その人を代表するわけでして善人となつて現れてゐる人は善をしようとする情緒が一番强いのであるし、惡人となつて現れてゐる人はわるいことでも何でも差し當り自分に都合のいゝことをしたいといふ情緒が一番强いのです。スペンサーが『人間は天使に支配されたり惡魔に支配されたりしてゐる』といつたのはこのことです。

婦人を例にとつて申しますならば、生活の安定を得たいといふ情緒、卽ち欲望が外のどの情緒よりも强い場合には、すべての外の情緒を働かせないで、經濟的欲望のためにのみ心を傾けてゐる結果、ツヒに、何のうるほひもないコチコチしたかたい感じのする人間になつてしまひます。それに反して戀愛慾の强い婦人は人生は戀愛のみであるといふように、戀愛にひたつてゐる事が人生の最高の幸福であるように考へてあまツたるい、あめがとけたような女になつてしまひます。

そして、それは、みな本當の自己をつかんでゐない結果です。本當の自己をつかんでゐるならば、いくつかに分割されてある、いくつかの小さい自己、卽ち、いくつかの情緒のうちの一ツの情緒に自己の全部を支配されるやうな事はなく、それらのいくつかの情緒を適當にアンバイして統一して行きますから、石のやうな女に

なつたり、あめのやうな人間になつたりしないで、人間らしい人間になる事が出來るのです。

本當の自己をつかんでをれば、その自己が凡ての小さい自己を統一して、そして、いはゆる完全に近い人間となり得る譯です。

私ども人間の自己といふもののがいくつかの小さい自己に分たれてゐると同じやうに、社會もまた社會の本體がいくつかの小さい社會に分たれてゐます。たとへば、貴族とか、平民とか、農民とか、知力階級とか、資本階級とか、勞働階級とか、男の世界とか、女の世界とか、又は子供の世界とかいふように。

そして、時によつて、そのうちのどれか一ツが優勢になつて、そして、それが恰も全社會を代表してゐるかのような觀を呈します。かつ、又、その優勢な階級自身も自分が社會全體を代表してゐるかのような考へを持ちます。

そして、そこに人爲的な不平等が造り上げられました。

貴族が優勢であつて、彼ら自身が社會の代表者であつたり、資本階級が優勢であり代表者であつたりしました、ことに、女子に對する男子が優勢であつて、男子はこの社會は自分らのものであるように考へてゐました。

そして、貴族に反抗したのが平民であり、資本階級に對抗して立つたのが勞働階級であり、男子の絕對の權力を奪ひ取らうとしたのが婦人でありますが、しかし、勞働階級が資本家を倒しても、婦人が男子の握つてゐる權力をみな奪ひ取つても、それでは、しひたげられるものゝ位置が代つたゞけで、人間生活の不幸は少しも減少しません幸福は少しも多くはなりません。

そこで、私どもは、社會の本體を見極める必要があります。一個人としては、本當の自己をつかむ必要があると同じやうに、社會の本體を明らかにする必要があります。

そして、その社會の本體が凡ての小さい社會を統一しようとした時に、人爲的の社會的不平等は除去されます。

社會の諸問題は整然と處理されます。

そして、かういふ社會狀態が現出した時には社會正義が行はれたのです。

たましひに對する概念の進化

もう一度、自己の問題に歸りますが、いろいろの情緒から成り立つてゐる自己を統一する本當の自己、無限の自己、神ともいひ得る自己をつかんでゐるといふことを、他の言葉を持つて申しますと、これは魂を握つてゐるといふことと同じ意味になると私は考へます。

そこで、たましひといふことについて、私が考へ得た所を少しお話して見たいと思ひますが一體たましひとはどんなものであるかまだ、今日の人間の知識では了解する事は出來ません。從つて、誰にでも首肯出來るように説明した人はありません。

たましひの本體は何んであるかまだ、分らないと同じように、愛だとか、電氣だとか、磁石だとかいふもの丶本體もまだ分つてをりませんが、しかし、さういふものの作用については、人は、可なり研究もしてゐるし、又有益に使用してもゐます。

それと同じく、たましひも其の本體は誰にも分つてはをりませんが、しかし、その作用は誰にでも分つてゐます。そして、昔の人はたましひをどういふ風に考へてゐたかといふと、たましひといふものを恰も一ツの物質であるかのように、人間の肉體のうちに存在してゐる一ツの眞ずゐ、けれども、肉體から離すことが出來るもの、そして、肉體よりは價値のあるもの、肉體よりはより高き使命を持つたもの、かつ、また肉體よりは永久的な本體であると考へてゐま

した。

そして、そのたましひが永遠の生活に入るためには、つまり、たましひが肉體の死によつて肉體から解放されるまで、どうぞこうぞしてこの世の汚れから遠ざけて置かなければならない死ぬまで純潔に保つて置かなければならないとされてゐました。

けれども、こういふ考へ方はもう長い以前に破壞されてしまひました。もち論、或る方面では、議論としてゞなく、信仰としてさういふ考へは生きてゐて人間を支配してゐますが、しかし、現代の生理學上及び心理學上の觀念がさういふ考へを破壞してしまひました。其の結果、今日においては、舊式のたましひの概念は大體において無くなつてしまひました。

今日のいはゆる新人と稱せられる人々は大抵はたましひの存在といふことを信じません。

現代の多くの人は、無條件に、たましひを捨てゝしまつてゐますし、又、ある人にとつてはたましひといふものには霧がかゝつてゐて、有るか無いか、殆ど、摑めないものになつてゐます。

幾分かの反對の證據はあつてもとにかく、一度は人生の中心概念であつたたましひを現代人は最早信じてをりませんが、これは、私共の精神生活に非常に深い交渉を持つものでありますから、今、私どもは、たましひの昔の象徴に新らしい意義を見出すことが必要となつてをります。

つまり、現世の生活に重きを置いて、傳統的なたましひの定義を承認出來ない人々のためにもう一度、たましひなるものに定義を下すことが必要になつて來てゐると私は考へるのです。

現實の世界に超越しようとする長い間の努力によつて人間種族が蓄積して來た大きな精神的財産の一部を、第一に、たましひは所有してゐ

ます。そして、その精神的財産の一ッは文學です。

書物といふものは、現實の實際の社會よりはよりよき狀態に達するように人々を刺げきし、導き、想像上の時代、場所、又は、國民の狀態を繪にして現すのみならず、書物は直接の經驗の新らしい世界をその經驗を持たないものに紹介します。かくして、多くの人々の知力的及び情緖的地平線を擴張します。

ですから、本當に書物をよむ人は書物のうちに一種のみ力を感じます、そして、一度、このみ力を味はつたものは、現實の生活にのみ追はれて、全くこのみ力のない狀態になつてしまうならば心の空虛にたへられなくなつてしまひます。そして、それは、成長して行かうとする魂の糧が無いからです。

いひ直しますと、書物によつて開かれた門戶を通して、人間の生活は、精神的に向上して行く。この精神的財産を攝取しつゝあることによつて人間のたましひは滿足を覺えます。

精神的財産のもう一ッ、たましひの糧となるものは美のいひ傳へであります。

美しく飾りたいといふ衝動は人間が最初から持つてゐました。自然のうちに美を見出し、美を創造する欲望はだん〳〵大きくなりました。そして、徐々といろ〳〵の藝術が發達し、美作品が蓄積され、大切に保存されるようになりました。

音樂についても矢張り同じことがいへますがしかし、人間種族が蓄積した精神的財産は文學及藝術の範圍に限られたものではありません。

長い間、人間は生活についての實驗を重ねました。そして、それらの實驗が發見となり、發明となり、科學となり、哲學となりました。そして、それらがみな人間のたましひを成長させる糧となつてをります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かういふ風に考へて來ますと、一體、たましひとは、ものゝ名ではなく、生活の種類の名であるといふことになります。

　いひかへますと、ふるい概念のたましひは、肉體につゝまれてある。或るかたちを成したものであるに反して、今、申し上げたような概念のたましひは私ども各自が創造して行くべきものです。そして、このたましひ創造の仕事は一時的の仕事ではなく、一生涯の仕事です。

　そして、たましひの救ひといふことは來世の生活に對する準備ではなく、毎日の生活において、具體的な價値を造つて行く、つまり與へられた職務に對して忠實であることによつて一種の人格をつくり上げて行くことであります。

　要約して申しますなら、私どもの內部の豐富なことゝ、誠實であることゝ、そして、眞理と美と人生の威厳に感じやすいところにたましひがあるのです。

社會正義と貧乏問題

本當の自己といふ中心があつてそして、其の中心自己がいくつもの小さい自己に分たれてゐるし、社會もまたいくつかの小さい社會に分たれてゐると同じように社會問題もまたいくつにも／＼分たれてをりますがそれらの社會問題を總括する、乃至統一する、一番大きな社會問題は、人間が人間らしくなる問題、すなはち人道問題であります。

　そして、この人道問題を完成する、いひ直せば、人間が人間らしくなるについてのまづ第一の障がい物は貧乏です。

　貧乏であるためにいろ／＼なわざはひがかもし出されるといふことはすでに識者の認むるところでそして、この貧乏問題はいつの時代にも社會の前面に出てをります。

　そして、社會主義者は、現代の經濟組織がわ

るいから貧乏があるので、この組織さへ打ちこわせば貧乏は無くなるといひますし、政治改革家は政治家の政治のとり方が誤まつてゐるからだといひ、禁酒論者は貧乏の原因は酒にあるといひ、教育家は教育が充分に普及しないからだと申します。

彼らのいふところは間違つてはをりません。けれども、彼らのいふところの一ツが貧乏の唯一の原因であるといつたのではいひ足りません確に、それらのうちのどれもがみな貧乏の原因であつて、それらのうちの、たゞ、一ツが原因ではないのですから。

が、何といつても、貧乏を醸造するいろ〳〵の原因のうちで、家庭破壊といふことは、最大原因であります、たとへば一家の稼人が勞働不能となつたり、死亡したり又は、逃亡したりするために家庭が維持出來なくなつた場合の貧乏はその貧乏が子孫の時代にまで續いて行きます。

なぜなら、一家の父であり夫である男子が家計を維持しないことになると、まだ、教育を最も必要とする時代の子供が働かなければならなくなります、そーて、その子供は長じて、又、何らの教養もなければ少しの餘裕もない家庭を造ります。そして、親と同じ生活を繰返へし、そこに生れた子供を又、同じ運命におとしいれます。

あまりに貧乏の結果、物質的にも精神的にも不健全な家庭に育つた子供は心理的生理的に缺陷があるので生活の向上といふことを考へることが出來ず、無節制、惡徳、罪惡、何らの貯蓄無くしておひぼれるといふことになるのです。

ですから、國民の不幸すなはち貧乏は除去しなければならず、そして、それは國民總がゝりで國民各自の家庭の安定をはからなければならない。自分の貧乏に敏感であると同じように他人の貧乏にも敏感であらねばならない。そして

さういふいはゆる社會性なるものは、幼少の頃から家庭において養成されなければならないのです。つまり、社會生活と貧乏の原因を除去する知識と實行とは家庭から始めなければならないのです。

いはゆる新人なるものは家庭を輕視します。否、家庭無用論すらとなへるものがあります。しかし彼らでも、矢張教育の必要は認めてゐます。そして、その教育なるものはすなはち技術の教育ではなく本當の人間教育なるものは經濟的に精神的に堅實な家庭がなければ成り立ちません。

なぜなら、社會的知識の芽は家庭以外には芽ぐむところがありません。自分と同じように、人を思ふ利他主義の精神は愛情のゆたかな家庭においてのみ生れます。

家庭において利他主義の精神、他の言葉でいへば社會正義の精神がめぐんで始めて、幼稚園も小學校も中等學校も大學も有効です。なぜなら、それらの教育機關は家庭においてめぐんだめを育てる肥料に過ぎないものです。

今日の教育がその莫大なる費用と勞力にもかゝはらずそのわりにその効を奏し得ないのは育てようとしてゐても第一その育てられるものが存在しない。種も無ければめも出てゐない地面にどんなに肥料をかけてもそれは何にもならないのは當然です。

ですから、貧乏の原因を除去しようとすると同時に、たましひの成長をはからうとする、本當に有効な施設はまづ家庭から始めなければなりません。

政府機關は要するに國民の各家庭の安定をはかり、この任務を遂行させるために存在するものです。

社會正義について、一言つけ加へて置きますが、社會正義は議論ではありません。一ツの行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

爲です。そして、それは男でも女でも老人でも子供でも、學者でも、無學者でも、金持でも貧乏人でも實行可能な行爲です。

なぜなら、社會正義を設定する第一歩は親切といふことです。

人は親切で無ければならないといふことは誰でも昔から知つてゐました。けれども、この親切なるものが、どのくらゐ大きな社會力であるかといふところに人は、今まで、氣づいてゐませんでした。

ですから、昔から、そして、今なほ、大多數がぼんやりと考へてゐた、そして、行つて來た親切といふ言葉を科學的な言葉に切りかへていふならばそれが社會正義であると思ひます。

今までの婦人問題は、今もなほさうですが婦人參政權問題とか、經濟の獨立問題とか、法律上男も女も同じでなければならないといふような問題とか、女子教育問題とかいふことに終始してゐましたが、しかし、私は、婦人問題はもう一歩進んで社會正義の獲得にまで行かなければならないと考へてゐます。

社會正義が徹底して始めてそれらの部分的な問題が公平に解決されるものであると私は信じます。

佛教、ストア哲學、社會主義

科學界は表面の世界で實際的ではあるがたましいが無い。そして、唯平面に擴がつた世界である。佛教、ストア哲學、社會主義の觀念は皆等しく此の科學の世界にのつかつてゐる。たとへば、佛教はサンカヤ哲學の無神主義の組織を、ストア哲學はソクラテスを通して詭辯主義を、そして、社會主義は英國の感能主義を基礎としてゐる。

彼等の主張によると、自明のものとして乃至は天命として人生を見て

ゐない。知力によつて現はされ、功利主義や、又は、唯理主義の標準によつて批判される問題として人生は取り扱はるべきだとしてゐる。此の思想が佛敎、ストア哲學、社　主義の背景となつてゐる。知力が支配してゐる。何となれば、たましいが去つてしまつたから。文化人は無意識に生活し、文明人は有識に生活する懐疑的、實際的、人爲的誇大妄想が今日の文明を代表してゐる。門外の農夫は無視されてゐる。國民と云へば都會人を意味する。則ち、無機な、始終上がつたり下がつたりしてゐる物塊。

農夫は國民のうちに數へられてゐない。此の觀念も亦機械的、都會的生活から來てゐる。故に、農夫は無視され卑しめられ嫌忌されてゐる。

紳士と僧侶の昔の階級が消滅すると同時に農夫のみが唯一の有機體人である。古代文化の唯一の遺物だ。

ストア哲學思想及び社會主義思想のうちにも農夫を容るる餘地がない……一般に巷間に於てとなへられてゐるのではない本當の意味の社會主義は凡ての知力主義の理想と同じく排他的である。しかるに、社會主義が人望を得た理由は社會主義をとなへる人によつてですら全く誤解されてゐる點にある。彼等は社會主義を權利の凡てと心得てゐる。併し、眞の社會主義は義務の凡てである。キャントの無上命令を強めたものであるのに其の無上命令の撤廢と思つてゐる。エナーツ　な緊張させることの代りに弛緩させるものだと心得てゐるからである。（スペングラー）

本誌臨時定價表

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	送料共

雜誌代及郵稅は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと郵劵代用は五厘切手にて一割增廣告は御照會次第御相談いたします

大正十五年六月廿三日印刷納本
大正十五年七月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN